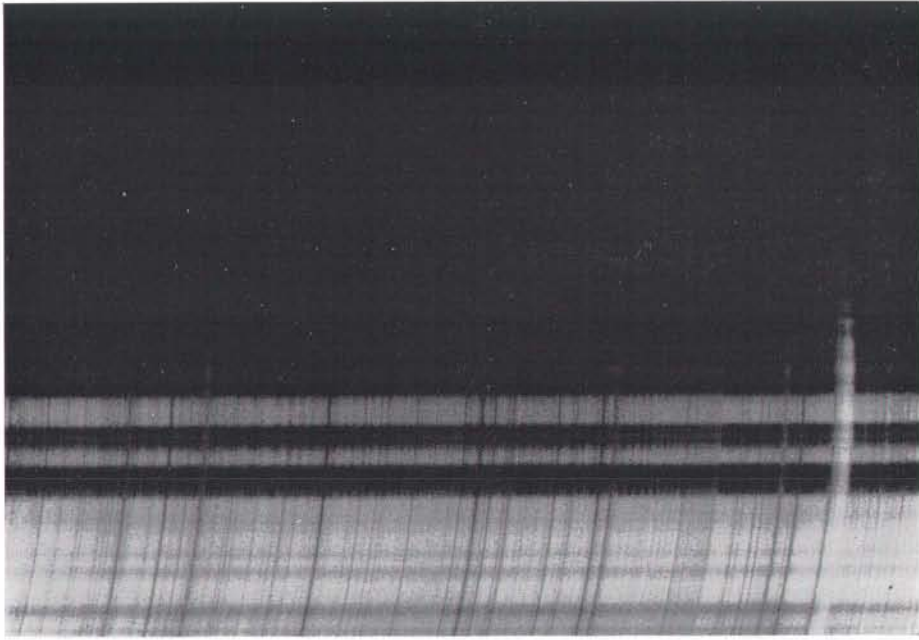


1966年11月12日の日食

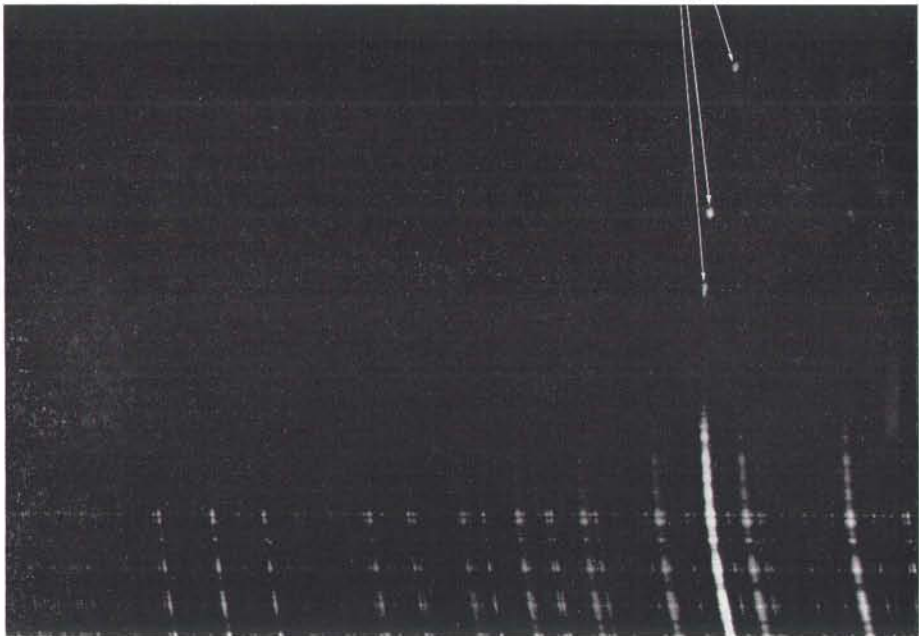


CN 帯

H_β+He

(1) 第二接触4秒前のスペクトルで、右端にバルマー線の H_β とヘリウム
 が一緒にとれている。その左にシアン帯が見える。

紅炎



H₂₈

H₂₆

H₂₄

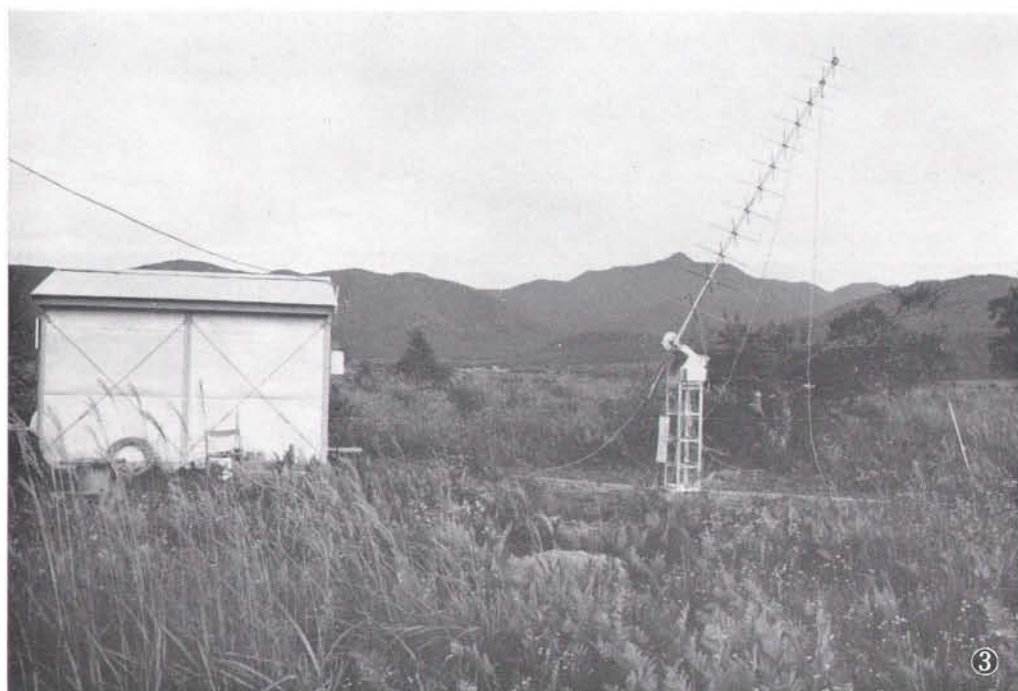
H₂₂

H₂₀

Ti⁺₃₆₈₅

H₁₅

(2) 第三接触2秒前のスペクトル。水素のバルマー線が原板では n=36
 くらいまで見える。また上方に、Ti⁺3685で3ヶ所写っているのは紅炎で、
 これらの紅炎のバルマー線も n=39 くらいまで測定可能である。



- ① 東から西を見た野辺山原。遠くの山は八ヶ岳、大干渉計の8個のアンテナは写真の左側の原に並ぶ。最も遠いアンテナは半島状に突出している山の向う側に置かれる。
- ② 仮設の70MHz干渉計アンテナと冬景色の八ヶ岳。その左は南アルプス連峰。
- ③ 仮設の観測小屋と160MHz偏波計、赤道儀式12素子八木アンテナ。
- ④ 仮設の観測小屋の内部。1967年9月現在、30MHz、70MHz、160MHzの干渉計と160MHz偏波計が置かれている。

